

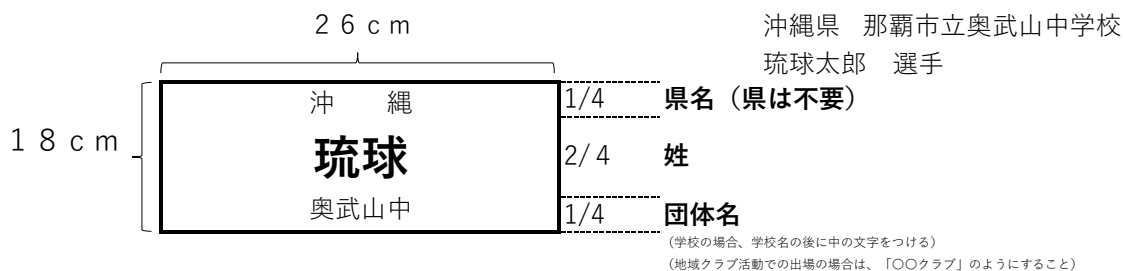
令和7年度九州中学校体育大会 第56回九州中学校ソフトテニス競技大会 申し合わせ事項

- 1 団体戦のオーダーは、試合ごとに2部作成し、大会本部と対戦相手チームに提出する。オーダーは本部提出を正とし、提出後の変更・訂正は認めない。
- 2 個人戦競技前に、個人戦監督会議を行う。
- 3 選手の服装・用具に、新たなデザインなどを入れないこと。競技中、ユニホームやキャップ・サンバイザー・ハチマキ等には、文字や記号を後から記入もしくは印刷し、使用してはいけない。ただし、端の部分に小さく「団体名・名前」を記入してもよい。挨拶時にはシャツの裾を入れる。袖をまくることはしない。長袖アンダーシャツ・ロングアンダータイツ（ステッチも含めて）・サポーター・テーピングを使用する場合、その色は単色無地を原則とする。荒天時に体育館で大会が開催される場合は、必ずインドア専用のテニスシューズ又は、体育館シューズを使用する。ただし、屋外用のシューズの底をきれいにし、靴底の砂などを取り除き、係のチェックが完了すれば使用を認める。
- 4 団体戦の場合、監督・コーチは挨拶に立ち会うこと。
- 5 空きコートでの練習は認めない。
- 6 ストリングに装着する衝撃吸収材は使用しない。
- 7 コート内の飲食は、熱中症対策を除いて禁止する。監督は熱中症対策として、水分・塩分補給に十分配慮し、本部が認める範囲において、または正審が競技に支障がないと認める範囲において、水筒・うちわ・パラソル・タープ・日傘・コールドスプレー・塩分タブレット・クーラー・キーパー等をベンチに準備してもよい。チェンジサイズの時のみならず、チェンジサービス時やファイナルゲーム時のサイドチェンジ時も、指定された審判台付近での給水・塩分補給を、遅延行為・サイドコーチの対象とならない範囲において認める。マッチ中の選手の状況によって、レフェリーとの協議なしに、ペア以外（監督・コーチ・救護・応援者内の医療従事者等）の手当てを認める。
- 8 反射材の入った銀色等の日傘はプレーに支障をきたす場合があるので、応援者も含めて使用をひかえるが、これ以外の日傘は競技の妨げにならない限りでベンチで使用してもよい。
- 9 個人戦予選リーグにおいて、ハンドブックに記された範囲まで同点だった場合（三つどもえ）は、ファイナルゲームで再試合を実施する。それでも決まらなかった場合は抽選で決める。
- 10 ゼッケンについては、次のとおりとする。

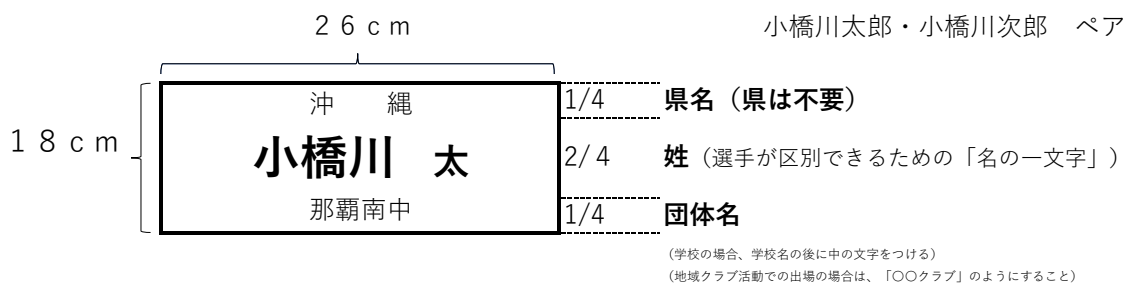
【選手のゼッケン】・・・B5版大横〈白地〉（縦約18cm×横約26cm）

- (1) 背中ゼッケンの表記については、届け出たとおりの表記とし、文字は「漢字」または「仮名」を使用し、独自の『ひらがな』『カタカナ』『ローマ字』などは使用しないこと。文字色は「黒」とする。
- (2) 背中のゼッケンは、B5版大横〈白地〉（縦約18cm×横約26cm）の大きさのものに県名、団体名と姓を書く。県名の「県」の文字はつけないものとする。中学校は「中」と表記する。各チームで作成し、背中の中央につける。ただし四隅を留めるものとする。
- (3) 背中のゼッケンをシャツそのものへプリントすることは認めない。
- (4) 背中のゼッケンで同名の団体がある場合には、区別をするために団体名の工夫をしてもよい。ただし、地区ごとに望ましい表記をすること。
- (5) 背中のゼッケンの文字の位置は、下図例3のとおりとし、同一チームに同姓の選手がいる場合には、選手が区別できるための「名の一文字」を付け加えること。
- (6) 中学校名が第一・第二中学校や東・西・南・北中学校のような場合、学校名をわかりやすくするために、下図例4のように学校所在地を付記してもよい。
- (7) 学校名が「〇〇中学校」の場合は「〇〇中」と表記し、それ以外の「〇〇学園中等部」等の学校については中をつけずに、適当な表記で表現する。
- (8) 下図のように（公財）日本ソフトテニス連盟で示されている三段とする。

《例3 選手のゼッケン》



《例4 同姓選手のいる場合・学校所在地を付記する場合》



- 11 監督は、本大会要項および細案・申し合わせ事項・競技上の注意・会場使用上の注意やマナー等について、その関係するすべての生徒・保護者を含む大会参加者に周知徹底させるものとする。